



白目(しろめ)の話

【2月の会礼に予定していた話です。

インフルエンザの対応のため会礼の日が決まりませんので先に掲載します。】

今日の会礼は、「白目(しろめ)の話」をします。

「白目(しろめ)」って何だか分かりますか。目には黒い部分と白い部分があります。黒目の周りにある白い部分を白目と言います。

生き物には、目がありますが、この白目(しろめ)がしっかりとあるのは、じつは人間だけなんです。

例えば、犬や猫の顔を思い浮かべてみてください。くるくるとした黒目のイメージが強いのではないのでしょうか。

「うちの猫には、白目(しろめ)があるよ。」

と言う人がいるかもしれません。でもあれは、黒目の瞳孔(どうこう)と言う部分を狭くして暗くても見えるようにしているだけで、白目(しろめ)が多いわけではありません。その証拠に、目をキョロキョロさせている猫って見たことありませんよね。

でも、人間には白目(しろめ)がしっかりとあって、しかも目はほかの動物たちと比べて横に広くできています。そのため、目の向きがはっきりと分かるようになります。目の向きというのは、難しい言葉で「視線」とも言います。人間は、言葉でやり取りしていない頃から、この視線で気持ちをやりとりしていたのではないかととも言われています。

「目(視線)で気持ちをやりとり」

というと、みなさんの生活の中でも思い当たることがありますよね。

そう、天方小のあいさつです。



天方小のみんなは、目を見てあいさつができますよね。本当に素晴らしいことだと思います。

この“目を見てあいさつできる”こと、ぜひ続けてほしいと思います。

そして、この“目を見てあいさつ”に加えられるといいなと思うことがあります。それは、笑顔です。



年が明け、令和2年も始まりました。3学期は、本年度のまとめの学期ですが、次の学校次の学年への準備の学期でもあります。

「目を見てあいさつ」に「笑顔」を加え、ステップアップできるようにしていきましょう。



※ 参考文献 「モアイの白目 小林洋美著」より